

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 葛原 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none">・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようになっています。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

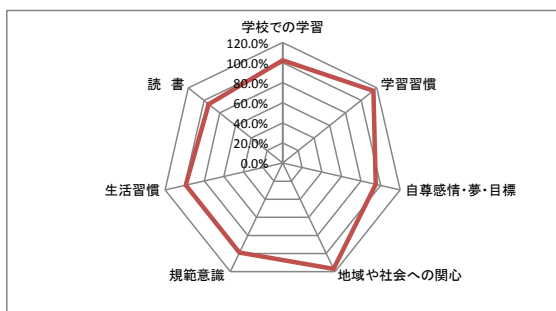
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・読む力や言語についての知識・理解を問う問題は、いずれも県および全校の平均正答率を上回っていた。 ・話す力や聞く力を問う問題については、全国の平均正答率と同程度であった。 ・書く力を問う問題については課題があり、必要な情報を捉え、相手や目的に応じて自分の思いや考えを文章で適切に表現する力を伸ばしていく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	・文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む問題は正答率が高く、文章を読み取る力が伸びている。	
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じて、自分の考えを明確にし、まとめて書く問題は正答率が低く、努力が必要である。	
算数	全体的な傾向や特徴など	・数と計算、量と測定に関する問題については、全国の平均正答率とほぼ同程度であった。 ・図形、数量関係に関する問題に関しては、いずれも全国の平均正答率を下回っており、伴って変わる二つの数量の関係性を考察したり、図形の性質や構成要素を理解し、それを応用したりする力を伸ばしていくことが課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する問題、及び、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算する問題については、全国の平均正答率を上回っていた。	
	努力が必要な問題	・図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する問題、及び、数量を比較し、何倍かを読み取る問題については特に正答率が低かった。学習の要点を押さえながら、より丁寧に指導していく必要がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・家では自分で計画を立てて勉強している、と回答した児童の割合が全国平均を大幅に上回っており、学習の習慣が定着していることがわかる。 ・将来の夢や目標をもっている児童の割合は全国平均よりも高かったが、自分にはよいところがあると回答した児童は、県や全国の平均よりも低かった。 <p>一人一人の児童が、様々な活動の中で多くの達成感や成就感を味わい、自尊感情を高められるように学校、家庭、地域が相互に協力し合いながら取り組んでいく必要がある。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・国語科においては、言語についての知識・理解を深めるとともに、言葉や文章による適切な表現方法について学習し、全教科にわたり話し合う活動を多く設定することによって、表現力の向上を目指す。 ・算数科だけでなく他の教科でも、数量を比較する場面において、必要な情報を読み取ったり、特徴や傾向について話し合ったりする活動に力を入れ、数学的な見方・考え方の育成を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家族や友達と過ごす時間や読書することの大切さについて伝え、放課後や週末、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりする割合を減少できるようにする。 ・朝食を毎日食べることや毎日同じくらいの時間に寝て、同じくらいの時間に起きることなど、規則正しい生活習慣を身に付けることが、学力の向上にも深く関わっていることを、児童のみならず、地域やご家庭にも幅広く伝え、生活習慣定着への意識向上を図る。
